

令和3年司法試験合格体験記

2020年度修了（未修コース）谷本 泰三

15期未修の谷本泰三と申します。平成30年4月に入学し、令和3年3月に卒業して、令和3年司法試験に合格しました。理系の大学・大学院の出身で、社会人を経験しています。社会人経験のなかで、知的財産を専門とする弁護士になりたいと思い、岡山大学法科大学院に入学することを決意しました。数ある法科大学院のなかで岡山大学法科大学院を選んだのは、経済的理由が大きく、実家の香川から唯一通学できたからです。岡山大学法科大学院がなければ、司法試験にチャレンジして合格まですることはなかったと思います。

私は法学部出身ではなく、また年齢が高かったため、法科大学院生活に馴染めるか不安でした。けれども、先生方の授業は丁寧でわかりやすく、法律の基本を身につけることができましたと思います。先生のなかには、気分転換として昼休みにサッカーをしようとして誘ってくれる方もいらっしゃいました。また、クラスには私のほかにも社会人経験の方がおられましたし、クラスの皆さんは私に対し優しく接してくれました。クラスの皆さんはとても優秀で、私が年齢的に導く立場にいないかならなければならぬところ、逆に助けられっぱなしでした。法科大学院生活を送る環境としては、本当に恵まれていたと思います。

法律の勉強は苦勞しました。法律に慣れはじめたところで合格できたような感じもしません。はじめは授業を受けること自体が久しく、座っているだけで苦痛でした。香川からの通学のため、1時限に授業があると家を出るのが朝早く、また5時限に授業があると家に帰るのが夜遅くなって、勉強時間の確保が難しかったです。未修の3年間は、授業期間中は予習に追われ、休業期間中に復習するといったことの繰り返しだったように思います。授業に付いていくのに精一杯で、単位を落とすこともありましたが、成績もよくありませんでした。それでも司法試験に合格することができたのは、岡山大学法科大学院で学んだことを信じて、自分自身の目標のため、最後まで諦めずに勉強したからだだと思います。

司法試験にチャレンジできることに感謝し、目標に向かって最後まで諦めずにベストを尽くしてください。